

反省

寄り付付近のスクャは、値動きをずっと見ていたが角度が高いエントリーポイントを見つけることが出来なかった。

『ここが底or天井だろう』という値ごろ感しかエントリー根拠が無かったのでエントリーしなかった。
含み損をある程度許容するのならばエントリーできるのだが、自分は含み損の許容をしだすと損切できなくなり正常なメンタルを保てなくなるからそういう取引はしない。損切幅が少なく角度が高いポイントのみエントリーを徹底する。

前場は慎重になりすぎてノートレだった。目線は完全に売り目線。

しかし、下落の勢いが強くて窓を埋めに行く強烈なリバを警戒していた。

ショートのエントリーチャンスが2箇所あったが、上記理由もあり100%自信が持てず見送る判断をした。

エントリーしていたとしたら、1回目は損切で2回目のエントリーは100ティックほどの利確になっていた。

しかし、1回目の損切をした直後にズドン下げが来て、また損切した直後にこれかとメンタルを崩して
エントリーが雑になり収支がマイ転していた可能性がある。

よって、諸条件が整ったエントリーでも、何らかの懸念があり100%チャンスだと思えない場合は、

そのポイントでエントリーしたときの損切ラインをエントリーポイントに変更して、

指値を建てて、刺さったらラッキー・刺さらなかったら機会損失を受け入れ指値ずらししない・損切になったら環境認識を誤っているorエントリー条件に誤りがあるというメンタルでルール通りに運用していく。

①箇所→上昇トレンド入りを丁寧に確認してエントリー。含み益はいらないから握りつぶそうと思っていたが、指数の上昇の勢いが、大幅下落からの激リバ時のそれとは勢いが不足を感じたこと、含み益伸ばし中にキオクシアが1500円くらい急落したことから、強いトレンドが継続する激リバのパターンではないと判断しローソク足1本分で利確。

2回目エントリーも、キオクシアの急落につられて早利確してしまった。個別の動きだけを信じたとしたら50ティック程利確することが出来たが、指数の動きとキオクシアの値動きを加味すると自分には握り続けることが出来なかった。

なぜキオクシアの動きに拘ったのかというと、キオクシアが主導で指数が動いている感じがしたから。

逆であったとしても、明らかに強い時のキオクシアの動きと異なる動きだったから、

強いトレンドが継続するか否かはキオクシアを参考にすると角度が高まると感じたため。

2回目のエントリーが早利確となった段階で、次のチャンスを待つことにした。

待っていたら、トレンド転換サインが出たため目線を売り目線に転換。

②箇所→トレンド転換サインが出た後、ショートのエントリーサインを丁寧に確認後エントリー。

今日は強いトレンドが続くパターンではないと決め込んで欲張らずコツコツ利確。

3回目のエントリーをして、少し利が伸びた瞬間もあったが損切ラインに近づいては下に行ったりを繰り返していて、
トレンド転換が近いのかもと警戒して少しの戻りで微利確。

その段階で目線をフラットに戻し、トレンドを見極めようと待ちに徹した。

③→目線を買いにしてロングエントリー。すぐに損切できるラインまで待ってエントリーしたため、
感覚的には損切の感覚だったが、微利確で逃げられた。この取引が損切となった段階で横横になるか強いトレンドは今日の段階で発生することは無いと判断。どんなに良い動きをしたとしてもそれは振り返ったとき分かることであって、横横になり往復びんたを食らう危険性の方が角度が高いと判断し取引終了した。こういう時大体横横になる。今日も横横になっていた。

自分のやり方は横横になると損切しか残らないから、横横になる感覚が値動きから分かるようになってきたと思う。
もちろん外すときもあるけど、横横になると想定して取引をやめ損失を減らした額の方が取れている利益よりも上だと思う

来週に向けて整理

収支のプラ転は絶対に狙わない。あくまでルール通りに取引するのが第一優先。

寄り付付近のスクャは角度が高くかつ損切額が少なく済むポイントに絞る。そのあとは、環境認識をしっかり丁寧に行う。

強いトレンドを確認し、エントリーサインが出た場合のみエントリー。妥協してエントリーはしない。

とにかく待つ。ノートレでも良い。地味に確実に焦らない。

チャンスでは想定した損失を恐れず、どっしり構える

上手くいかなかったら負けを認めて取引終了。その時は反省してやり直すだけ